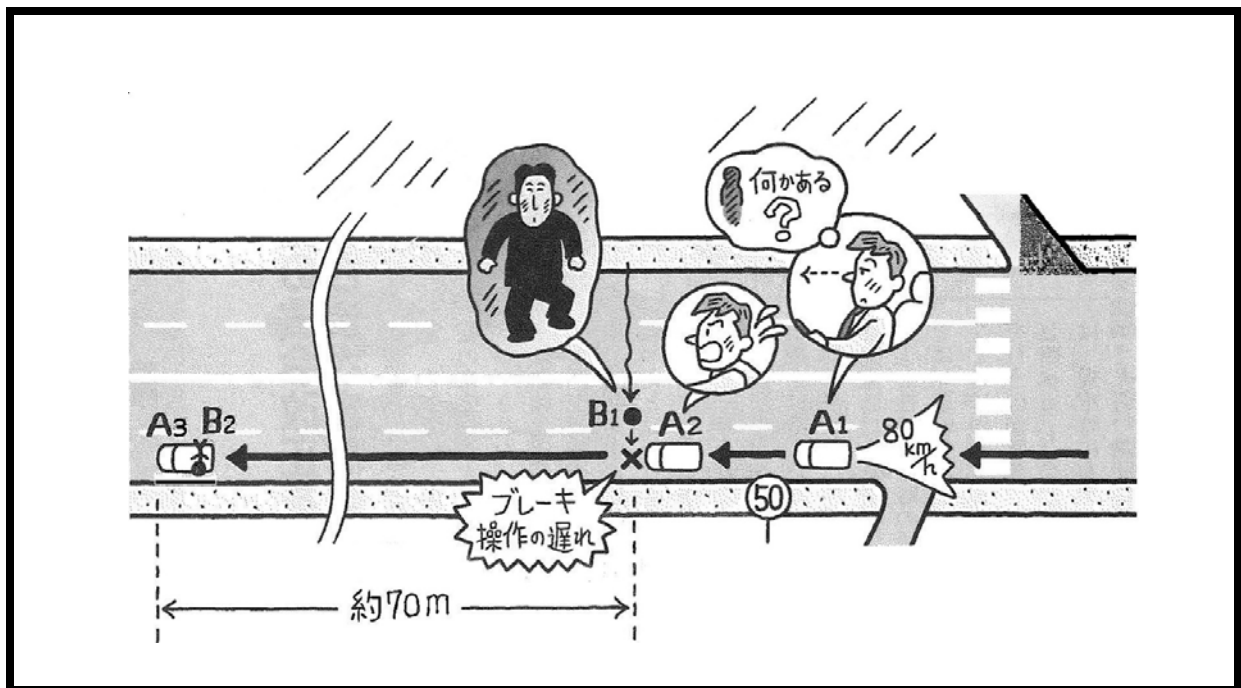


## ■事故の概況



事故類型：人対車両

発生日時：午後0時すぎ

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：歩行者 40歳代 男性

## ■ 事故の概要

Aは仕事を終え、帰宅途中に立ち寄った食堂でビール中ジョッキ一杯を飲みました。その後中央分離帯のない往復四車線の見通しの良い直線道路の第一車線を時速約80kmで走行していました。事故現場20m先手前くらいで前方右側になにかあると思った次の瞬間には、Bと衝突していました。Aは衝突した瞬間びっくりしてアクセルからいったん足を離してからブレーキを踏んだため、停止距離が長くなり、衝突地点から約70m先で停止しました。

Bは飲酒後歩いて帰宅する途中で、進行してくる車両の直前を横断しようとして、左からきたA車のボンネットに跳ね上げられました。

## ■ 事故から学ぶ

この事故の最大の原因はAの飲酒運転です。いまだに「ちょっとくらいなら大丈夫」「お酒は強いから」「すぐ近くだから」というような意識でハンドルを握ってしまう運転者が少なくありません。アルコールの影響は一般的にいわれるお酒の強さには関係なく、アルコールの血中濃度が一定に達するとすべての人に現れるという実験結果があります。少量のアルコールでも意識が散漫になりやすく、操作までの時間が長くなります。さらに、眠気が襲ってきて漫然・居眠り運転になったり、速度感覚が鈍ってきたりします。また、気が大きくなって速度を出しやす傾向もあります。飲んだら絶対に運転はしない、させないということを厳守してください。この事故ではBの歩行者も飲酒しており、そのことが無謀な横断につながったとも考えられます。飲酒の影響は運転者だけではないことを忘れてはなりません。